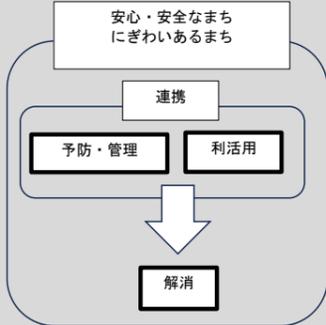


回答者	議題 1			議題 2
	1-1. めざす姿 の意見聴取について	1-2.	1-3.	めざすべき状態 の意見聴取について
	① 誰もが空家で困らない 住み継がれるまち 八尾 ② 「ありがとう」と「よろしくね」でつながる、にぎわい住み継がれるまつ八尾 ③ 「使って」にぎわい、「暮らし」で惹かれる、「住んで」つながる、にぎわい住み継がれる住宅 ④ すべての家に明かりが灯るまち八尾 ～空家の活発な活用をめざして	1-1で選択しためざす姿について、見直し、記載した方がよい語句等ございましたら、ご意見を記載してください。	①～④以外に、新たにご提案いただける内容ございましたら、記載ください。	
A	②	③もいいな、と思ったのですが、少し長いので下の部分を削除してみたら『「使って」にぎわい、「暮らし」で惹かれる、「住んで」つながる、にぎわい住み継がれる住宅』、と同じことの繰り返しになってしまいました。 ②も「ありがとう」「よろしくね」はどのような場面なのか、少し伝わりにくいかもかもしれません。		
B	④	副題の「空き家の活発な活用を目指して」は「解消」の部分が抜けているようにも感じます。①の言葉を使って、「誰もが空き家で困らない街を目指して」などはどうでしょうか。		予防・管理の項の「空家等の適切な管理は、所有者等の責務である・・・」の「責務」は義務だけでネガティブな印象になる様な気がします。「責務であり権利でもある」とまでいうのは言い過ぎかもしれませんが、ポジティブな印象を持ってもらえると良いと思います。
C	②		「空き家がない 住みよい きれいなまち 八尾」 理由は、空き家がなくなればゴミの不法投棄もなくなり、きれいな町のイメージがでると思います。	行政が主体となり、より強く指導していくために担当部局により強い権限をあたえる。 理由は、協定締結団体のノウハウを活用して所有者と話し合いながら、所有者の負担軽減を図らないと今よりも空家が増えるようになるので、相続問題、住宅ローン金利等に公費を投入することも必要と考える。
D	④			
E	④	「灯る」の漢字を使用されている理由を知りたい。 ⇒ 雰囲気は分かるが、すぐに読めない人もいるのでは？ 「明かり」は、自然の明かりと人口の明かりの両方を表すのに対して、「灯り」は人口の明かりのみを指す。ひらがな表記の方が無難ではないか？ ただ、この「明かり」が、空き家が解消され、人が集うことによって、将来などに希望や喜びももてる状態を指す「明るい」を意味するのであれば「明るり」の漢字を用いることも意味がある。 人が家に住むことにより「家の電気がつく」ことと、人が集うことで「明るい未来」を表現したいなら、やはりひらがな表記の方が無難かも。 ～空家の活発な活用を目指した先にある笑顔～とか		「目指すべき状態」とは、八尾市における「空家等対策」において、理想の状態やあるべき姿、ビジョンを意味すると考える。 現状の問題を解決した先にあるべき理想の姿・理想の状態を明文化したもの。 さらに、「基本方針」とは、理念や目標を達成するために、取るべき基本的な姿勢や考え方を示したものの。。とするならば、提示されている図がしっくりこない。 次のようなイメージになりやしないかと思うがいかがだろうか？ 最重要目標は、①「予防管理のための周知・啓蒙がされている」、②「利活用され賑わいがある」この状態ではないかと思う。 ①には【予防・管理】、②には【利活用】【解消】があたりかと思う。 【連携】は、八尾市の目指すべき状態というよりは、①②を達成し【解消】するための手段ではないかと思う。 現に、長年の取組の甲斐あって連携はなされているので、あえて「目指すべき状態（基本方針）」に位置付ける必要性があるのだろうか？ 
F	①			
G	④			宅地建物取引士への情報開示により、喫緊の課題である、空き家の老朽化による倒壊の危険、地域の治安悪化などの解決が図られ、且つ、不動産の流通を促進し、地域の活性化と良質な既存住宅の提供に繋げることができず。併せて、スキームにある市町村の「空家部局」の情報を「大阪住まい活性化フォーラム」事務局と情報共有し、参加する不動産団体の宅地建物取引士に限り、情報提供が受けられるように要望します。
H	④			人口減少が加速する現在、家屋や建物は余ってくるのは当たり前。新築マンションや分譲住宅もどんどんできていることです。古いもの、立地条件の悪いものなど価値の低いものは、お荷物にしかありません。予防・管理や利活用も個々では難しいことが多いと思われます。個々の家屋だけでなく、隣近所や地域性も含めた提案や施策も必要になってくるように思います。 例えば、八尾市景観審議会でも取り組んでいる「景観資源」としての活用などです。地域としての魅力が高まれば、物件の価値も上がり空家解消にも繋がっていくかもしれません。八尾市の立地や環境などをアピールし魅力ある街づくりができれば、移住者も増えていく人も自ずと減っていくのではないのでしょうか。
I	なし		空き家を仕舞う心・活かす心で街を育む八尾（国交省・アキヤリパスHP参照） 空き家対策の軸足が除却と活用にあることを明確にするためには、仕舞う（除却）という言葉が不可欠であると感じる。八尾市にあっては、空き家の除却を前提にしたゆとりある新しい街づくりに転換すべきという印象を持っている。活用については、基本的に人口増（世帯数増）を前提にしないと成立しない。	管理不全の状態を「解消」することは重要であるが、「仕舞う（除却）」という言葉を使わない時点で、この方針は検討に値しない。 また、目指すべき状態として考えられている「管理」「利活用」「解消」について、それを実施する主体を考慮することが重要である。すなわち、「利用可能な空き家等→活用」、「管理不全状態になった空き家等→解消（活用、除却）」の両者を達成するための鍵になる方法は、「空き家の流通」であり、行政の対応についても、空き家の流通性を高めることに軸足を置く時期にきていると考える。

回答者	議題 1			議題 2
	1-1. めざす姿 の意見聴取について	1-2.	1-3.	めざすべき状態 の意見聴取について
	① 誰もが空家で困らない 住み継がれるまち 八尾 ② 「ありがとう」と「よろしくね」でつながる、にぎわい住み継がれるまつ八尾 ③ 「使って」にぎわい、「暮らし」で惹かれる、「住んで」つながる、にぎわい住み継がれる住宅 ④ すべての家に明かりが燈るまち八尾 ～空家の活発な活用をめざして	1-1で選択しためざす姿について、見直し、記載した方がよい語句等がございましたら、ご意見を記載してください。	①～④以外に、新たなご提案いただける内容がございましたら、記載ください。	
J	④			
K	④	めざす姿の主旨について ②の「住宅は誰もが生まれ育った場所であり、思い出のあるものです。」を④にも記載してはどうか。 住宅は誰もが生まれ育った場所であり、思い出のあるものです。思い出の残る家が利用され、空家のないまちをめざします。		
L	①or②	①「誰もが空家で困らない」 → 空家に関連するお困りごとがあれば、八尾市や空家委員をはじめ、相談ができる所が身近にある。という広義な意味で「困らない」というコンセプトは、目指すべき姿を適切に表していると思いました。 後半の「住み継がれるまち」の部分は、住み継がれなくて、次の世代に何らかの形で引き継がれば良いように感じました。「次世代に継がれるまち 八尾」という様な表現でも良いように思いました。 ②まちはコミュニティーの基本 空き家は個人とまちの課題。それを端的にあらわす 挨拶の表現は良いと思います。空き家の課題に防災があるが、まちの防災にもつながる表現で良い。		連携の箇所、所有者の責任についてより明確にしていくために、八尾市民ひとりひとりと「連携をしている」という様な書きぶりは可能でしょうか？ ※予防・管理の所でも記載をしているので、重複するような書き方になる可能性はありますが。 例えば、協定締結団体、所有者並びに関係者、町会、自治会、庁内関係課と連携し【予防・管理】【利活用】【解消】に取り組んでいる。
M	④	④について →（確認）「燈る」の表記に関して、この漢字を採用した理由をご教示ください。		
N	①			空き家を「利活用」すれば「解消」につながるはずでありこれらが別の位置づけになっているイメージが湧きづらいです。 また、「予防・管理」と「利活用≒解消」が重なる部分のイメージが湧きにくいです。
O	③			